

配偶者等からの暴力に関する調査  
調査結果報告書

平成 30 年 3 月

奈良 県



# 目 次

1. 調査概要.....	1
2. 有効回答者の属性.....	2
(1) 有効回答者数.....	2
(2) 有効回答者の属性.....	2
3. 調査結果.....	4
(1) 配偶者等からの暴力に関する意識について.....	4
(2) 配偶者等からの暴力について.....	12
(3) 友人や家族などからのDVに関する相談について.....	29
(4) その他.....	32

## 【本報告書を読む際の留意点】

- ・ 図表中の「N」は、質問に対する回答者の総数を示しており、回答結果の割合（%）の分母である。
- ・ 回答結果の割合（%）は、回答者の総数（N）に対して、それぞれの選択肢の回答者の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものを示している。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を回答する方式）の質問の場合も、割合の合計値が100.0%にならない場合がある。また、複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を回答する方式）の設問の場合も同様に、回答結果の割合（%）は回答者の総数に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を示しているため、合計が100.0%以上となる。
- ・ 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答内容の判別が困難なものである。
- ・ 図表中の選択肢表記について、語句を短縮・簡略化している場合がある。



# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

本調査は、平成 30 年度以降を計画期間とする「奈良県配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画（第 4 次）（以下、「DV 計画」という。）」を策定するにあたり、県民の DV に関する意識、被害等の経験、ニーズ等を分析し、重点的に取り組むべき目標を明確化するために実施した。

## (2) 調査期間

平成 29 年 7 月 26 日～8 月 7 日

追加調査：平成 29 年 9 月 27 日～10 月 10 日

## (3) 調査対象者

奈良県在住 18 歳以上の男女 3,795 名

- ・男性 1,467 人
- ・女性 2,328 人

※市町村別人口比率割当をしたうえで、30～40 歳代の女性の抽出割合を高くして抽出

## (4) 調査方法

郵送による配布・回収

## (5) 調査項目

- ①属性（性別、年齢、居住地、居住形態、職業、年収、家族構成、既婚歴）
- ②配偶者等からの暴力に関する意識について
- ③配偶者等からの暴力について（被害経験、加害経験）
- ④友人や家族などからの DV に関する相談について
- ⑤その他

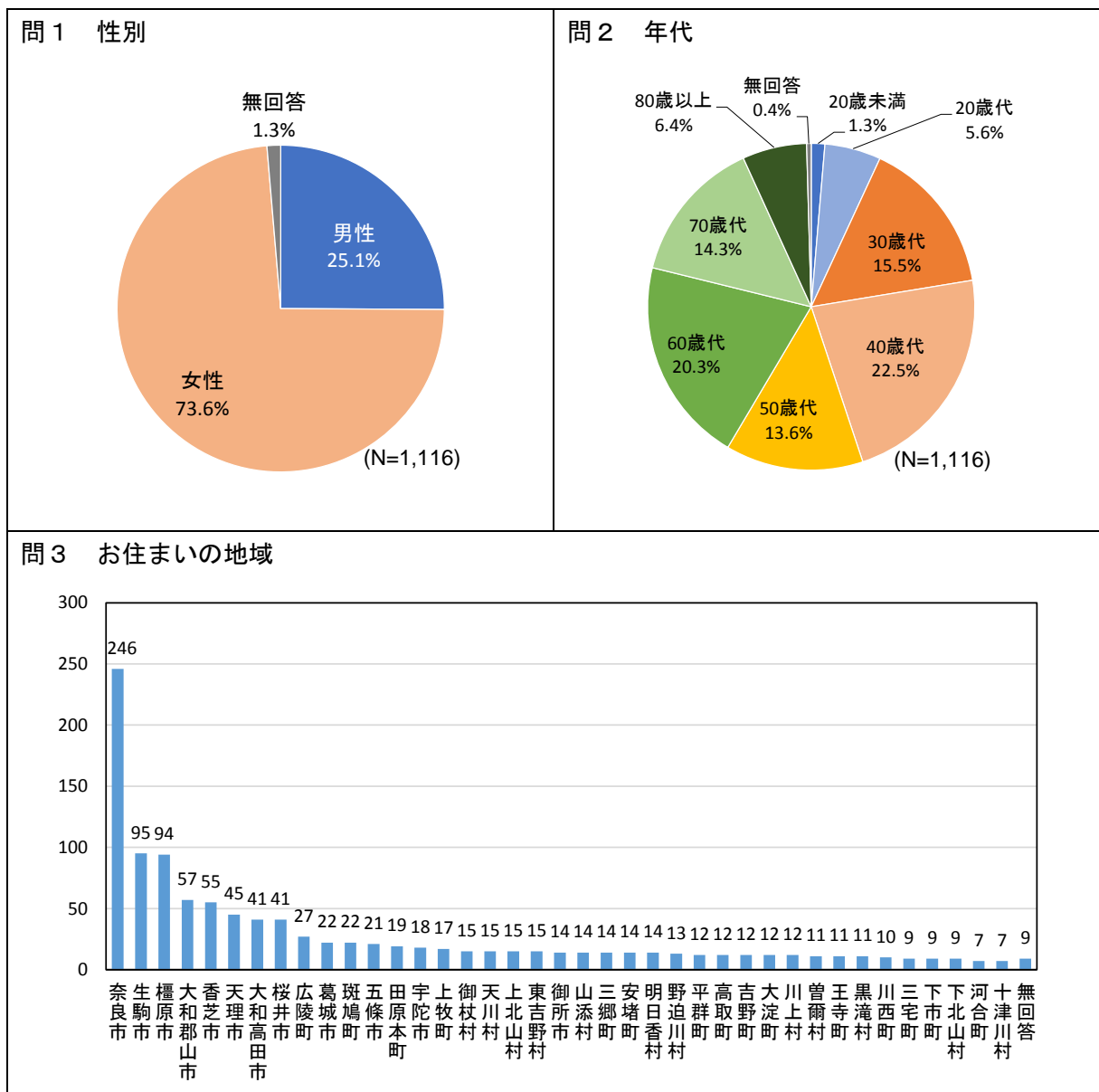
## 2. 有効回答者の属性

### (1) 有効回答者数

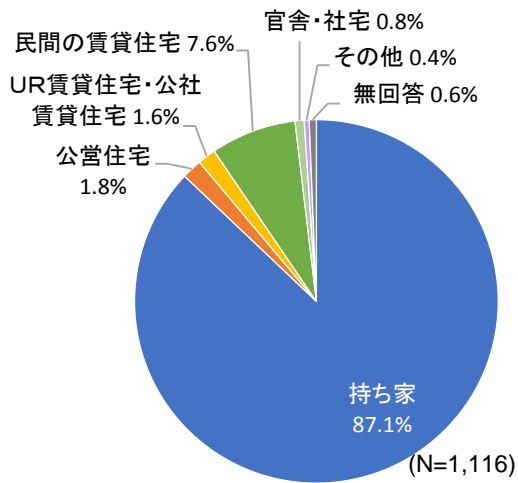
項目	配布数	有効回収数	有効回収率
全体	3,795 通	1,116 通	29.4%
男性	1,467 通	280 通	19.1%
女性	2,328 通	821 通	35.3%

※問1 性別が「無回答」15件有

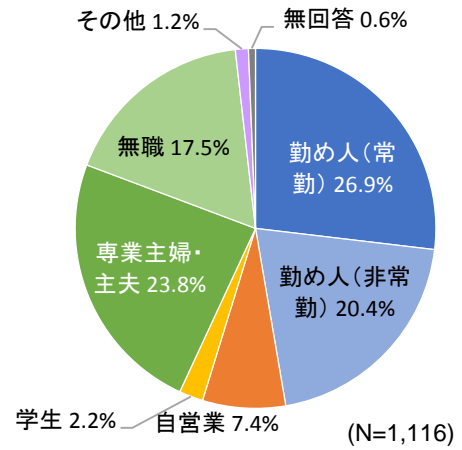
### (2) 有効回答者の属性



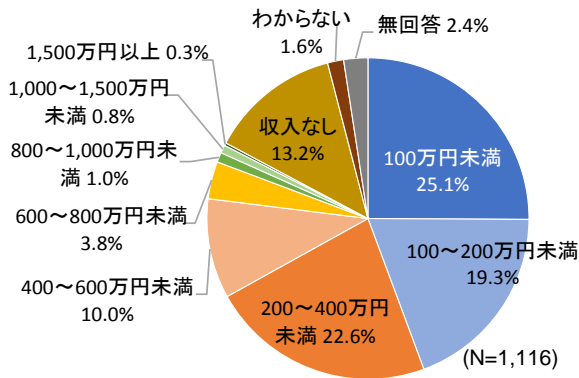
問4 居住形態



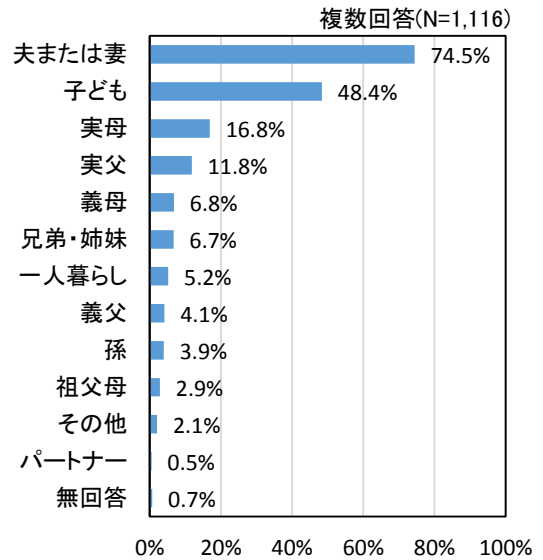
問5 職業



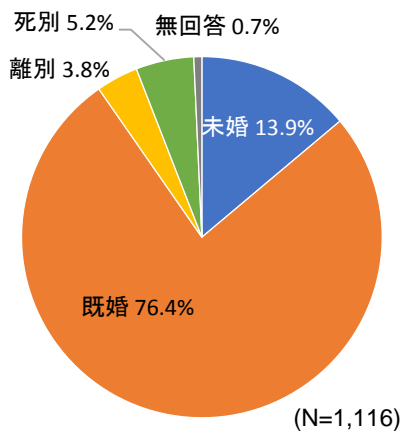
問6 年収



問7 世帯構成



問8 婚姻歴

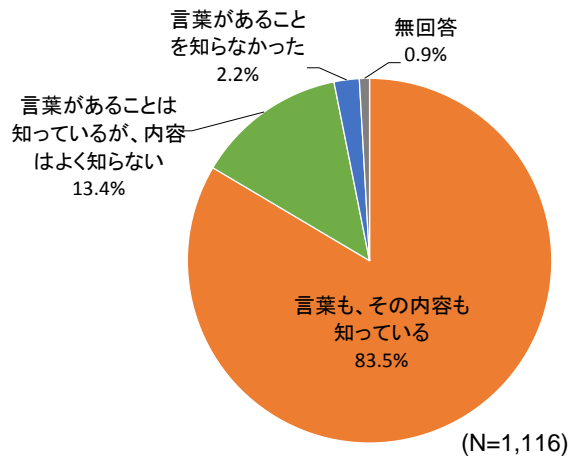


### 3. 調査結果

#### (1) 配偶者等からの暴力に関する意識について

問9 あなたは、「配偶者等からの暴力」（以下、「DV：ドメスティック・バイオレンス」）について、知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

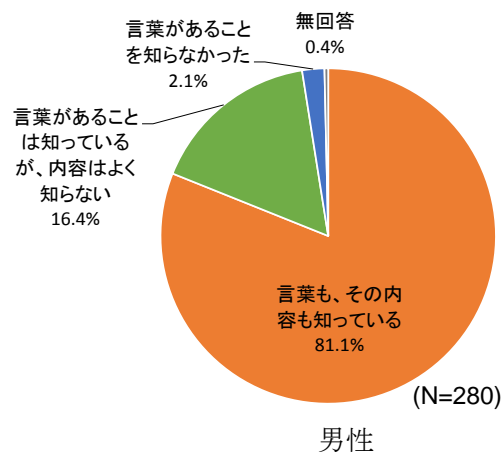
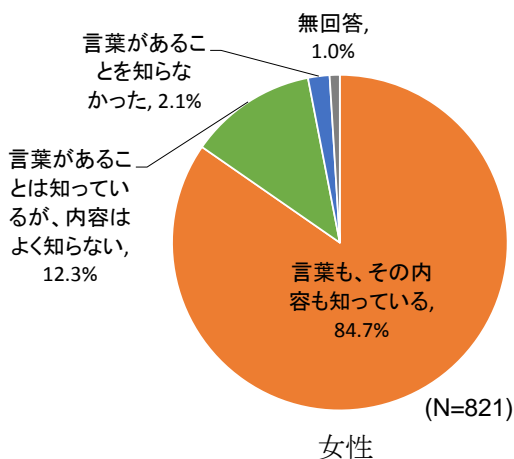
- ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く 83.5%であった。
- ・一方で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が 13.4%、「言葉があることを知らなかった」が 2.2%であり、合わせて 15.6%の人が内容を知らない。



#### クロス集計分析

##### ■男女別

・女性も男性も「言葉も、その内容も知っている」が最も多く、女性は 84.7%、男性は 81.1%であった。



##### ■年齢別

・「言葉も、その内容も知っている」の割合は、30歳代が最も多く 93.6%であり、80歳以上を除く全ての年代で5割以上となっている。

「言葉も、その内容も知っている」の割合

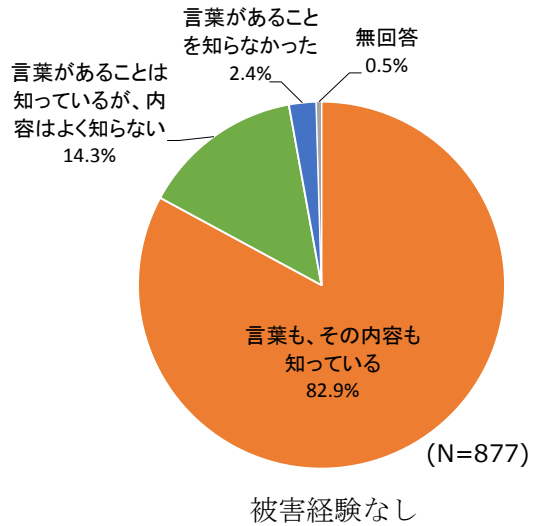
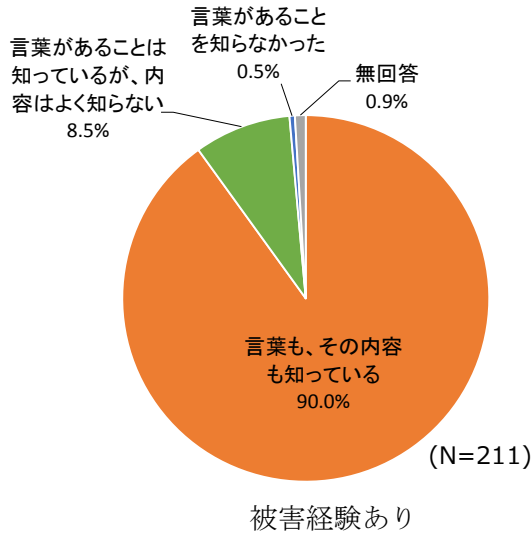
20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
86.7%	91.9%	93.6%	88.8%	91.4%	81.9%	72.5%	46.5%	60.0%	83.5%



クロス集計分析

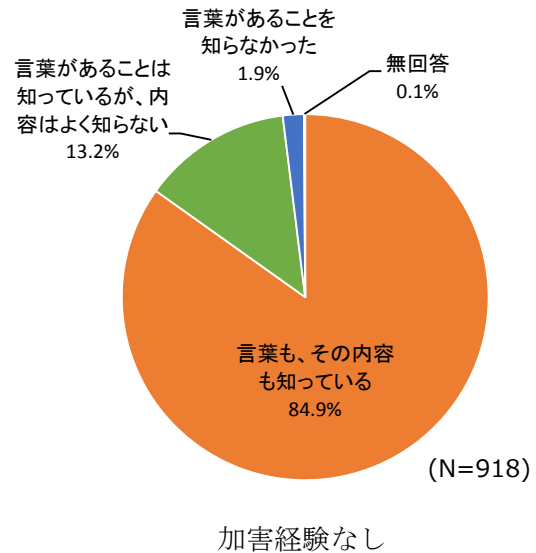
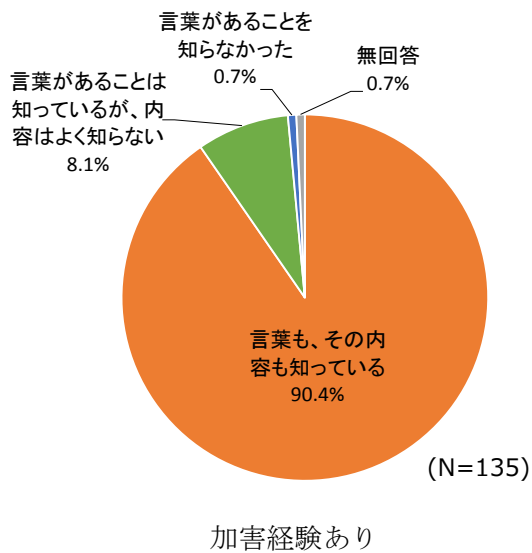
■被害経験別

・「言葉も、その内容も知っている」の割合は、被害経験ありの方がやや高くなっている。



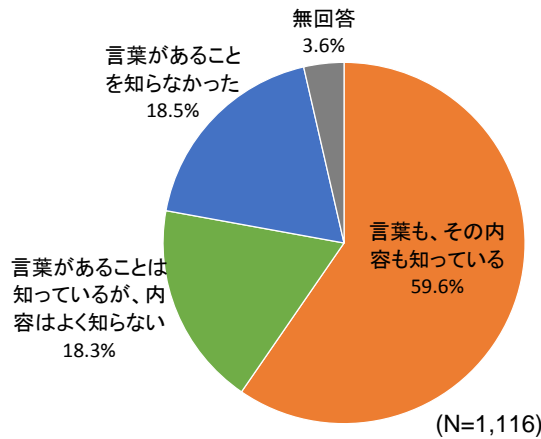
■加害経験別

・「言葉も、その内容も知っている」の割合は、加害経験ありの方がやや高くなっている。



問10 あなたは、「交際相手からの暴力」（以下、「デートDV」）について、知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

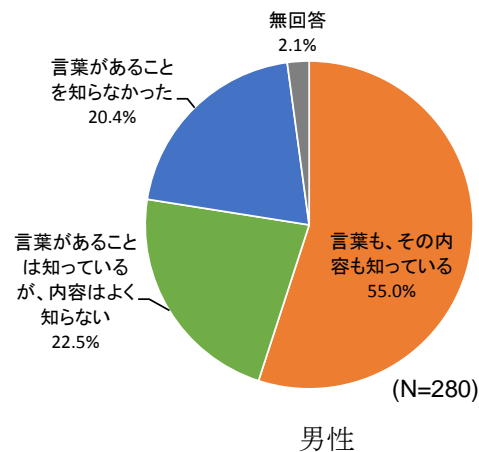
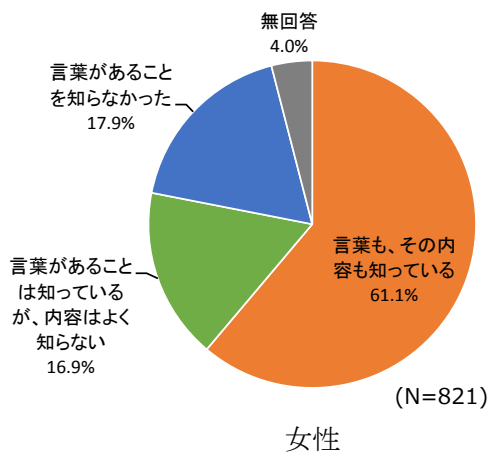
- ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く 59.6%であった。
- ・一方で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が 18.3%、「言葉があることを知らなかった」が 18.5%であり、合わせて約 36.8%の人が内容を知らない。



クロス集計分析

■男女別

- ・女性も男性も「言葉も、その内容も知っている」が最も多く、女性は 61.1%、男性は 55.0%であった。



■年齢別

- ・「言葉も、その内容も知っている」の割合は、20歳未満が最も多く 80.0%であり、80歳以上を除く全ての年代で5割以上となっている。

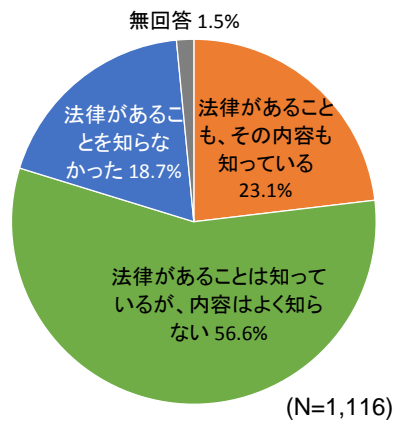
「言葉も、その内容も知っている」の割合

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
80.0%	67.7%	68.2%	65.7%	65.8%	53.3%	50.0%	33.8%	60.0%	59.6%

問 11 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

※この法律は、配偶者からの暴力（DV）に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。

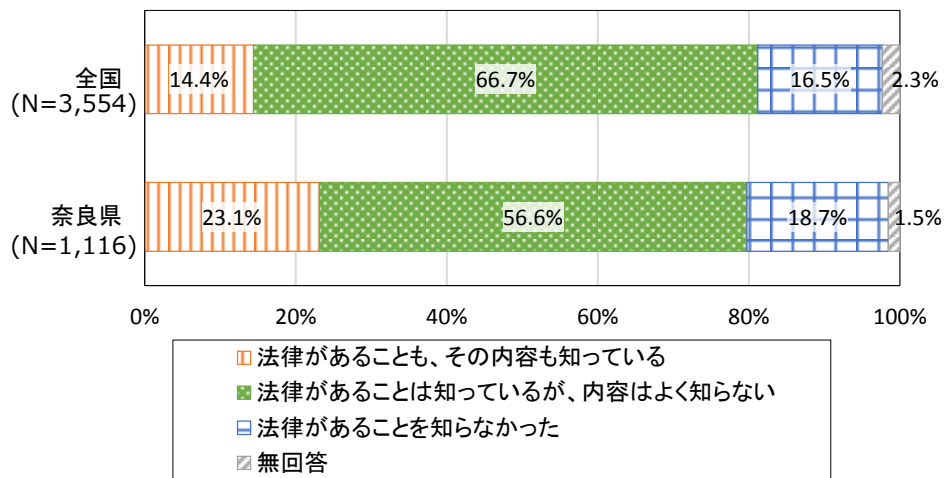
- ・「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」が最も多く 56.6%、また、「法律があることを知らなかった」が 18.7%であり、合わせて約 75.3%の人が内容を知らない。
- ・一方で「法律があることも、その内容も知っている」は 23.1%であった。



全国調査との比較

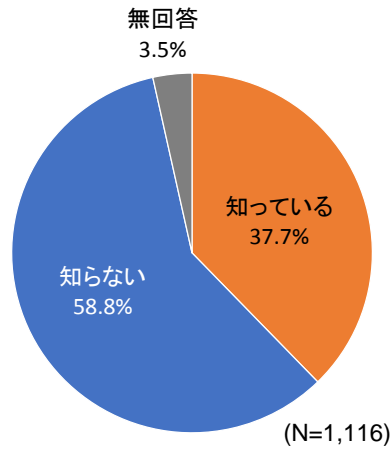
■ 「男女間における暴力に関する調査」(H27.3, 内閣府男女共同参画局)

- ・全国よりも奈良県の方が「法律があることも、その内容も知っている」の割合がやや高い。



問 12 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

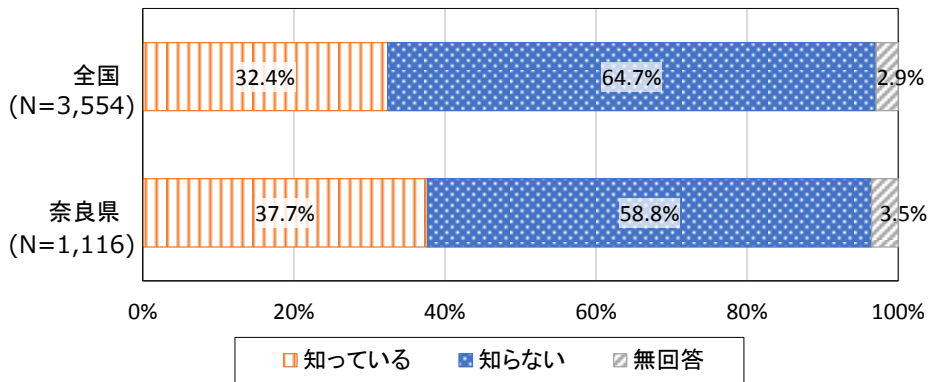
・「知っている」が37.7%、「知らない」が58.8%であった。



全国調査との比較

■ 「男女間における暴力に関する調査」(H27.3, 内閣府男女共同参画局)

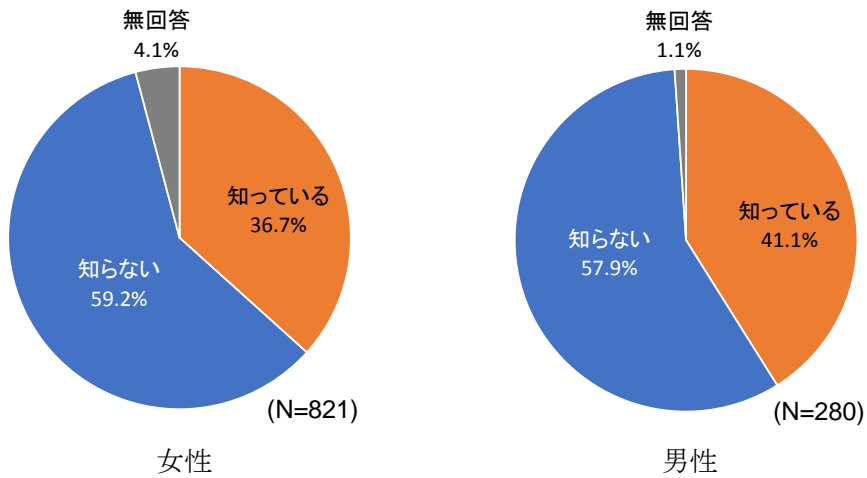
・全国よりも奈良県の方が、「知っている」の割合がやや高い。



クロス集計分析

■男女別

・女性も男性も「知らない」が多く、女性は59.2%、男性は57.9%であった。



■年齢別

・「知っている」の割合は、60歳代が最も多く44.9%であり、全て年代で5割未満となっている。

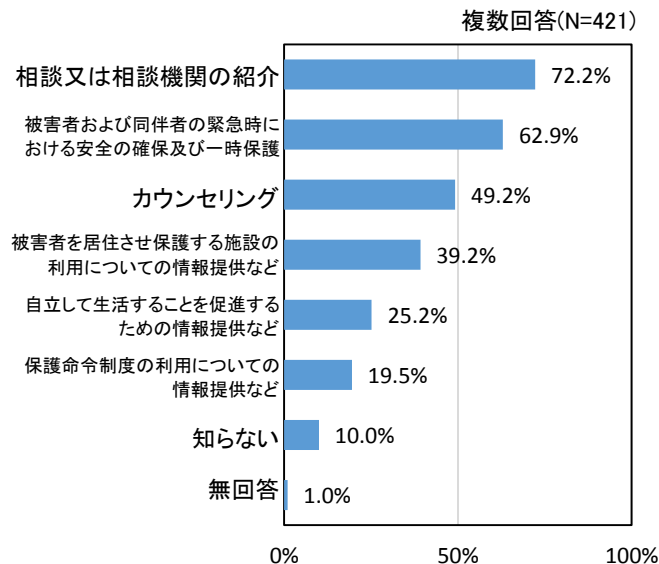
「知っている」の割合

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
26.7%	40.3%	31.2%	34.3%	40.1%	44.9%	44.4%	25.4%	0.0%	37.7%

問12で「1.知っている」と回答した者

問13 相談した際に受けられる支援を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

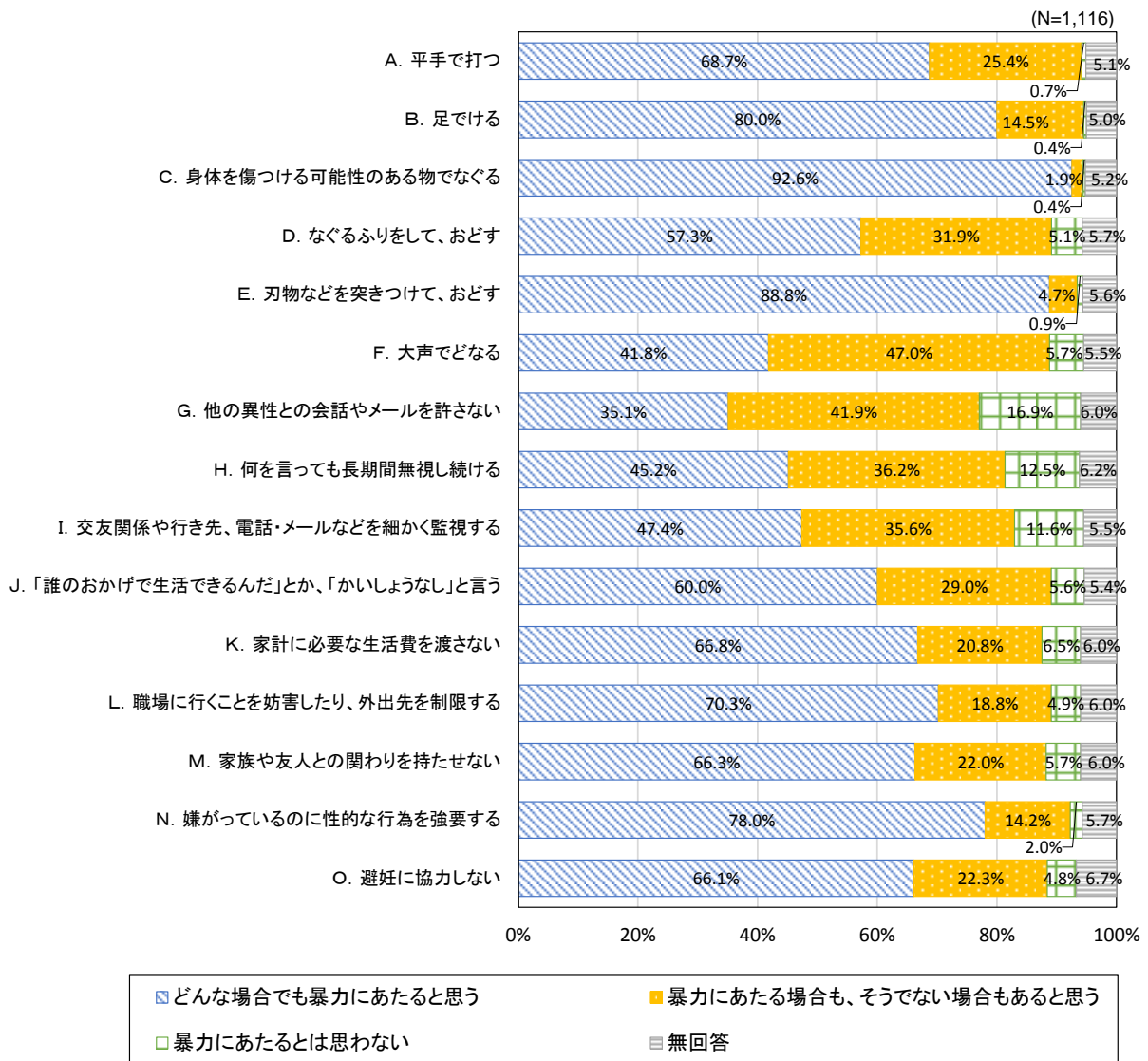
- ・「相談又は相談機関の紹介」が最も多く72.2%、次いで「被害者および同伴者の緊急時における安全の確保及び一時保護」が62.9%であった。
- ・一方で、10.0%の人が受けられる支援内容を「知らない」と回答している。



問 14 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを「暴力」だと思えますか。(A～Oそれぞれについて、あなたの考えに近い番号に1つずつ○)

※ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

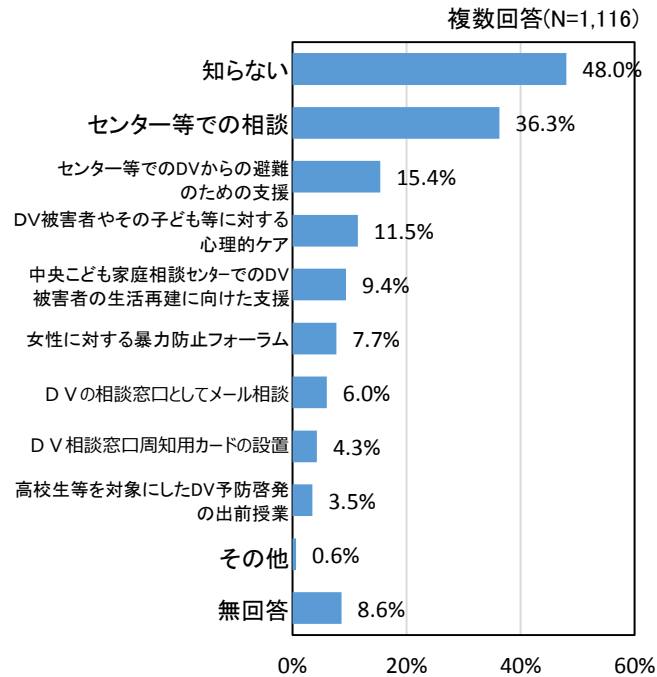
- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為で最も多かったのは、[C. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる]であり 92.6%であった。
- ・一方で、「暴力にあたるとは思わない」行為で最も多かったのは、[G. 他の異性との会話やメールを許さない]であり 16.9%、次いで、[H. 何を言っても長時間無視し続ける]が 12.5%であった。



問 15 配偶者等からの暴力に対して、予防・対策のために奈良県が取り組んでいることのうち、あなたが知っているものをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※センター等:配偶者暴力相談支援センター(中央こども家庭相談センター)、高田こども家庭相談センター、奈良県女性センター

- ・「知らない」が最も多く 48.0%であった。
- ・一方で、知っている取り組みの中では「センター等での相談」が最も多く 36.3%、次いで「センター等でのDVからの避難のための支援」が 15.4%であった。

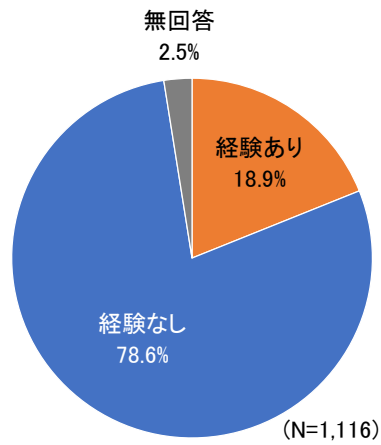


## (2) 配偶者等からの暴力について

### 【被害経験について】

問 16 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手などから問 14 の A～O のような行為を受けた経験がありますか。(あてはまるもの 1 つに○)

・「経験あり」が 18.9%、「経験なし」が 78.6%であった。

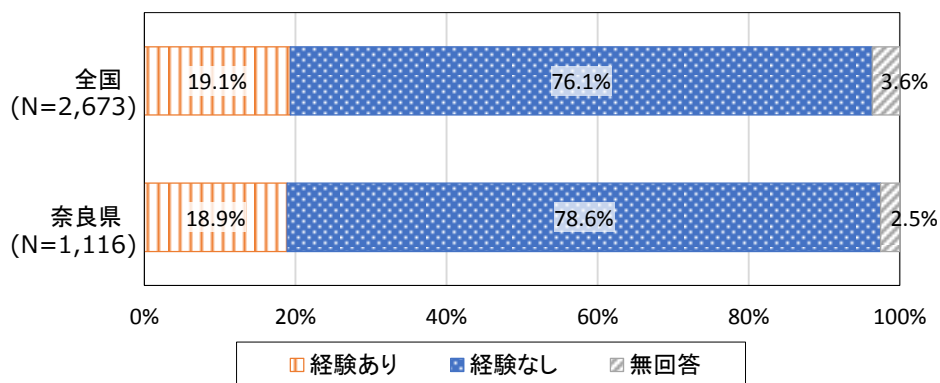




全国調査との比較

■ 「男女間における暴力に関する調査」 (H27.3, 内閣府男女共同参画局)

・配偶者や交際相手からのDVの被害経験の割合は、奈良県と全国で大きな差は見られなかった。

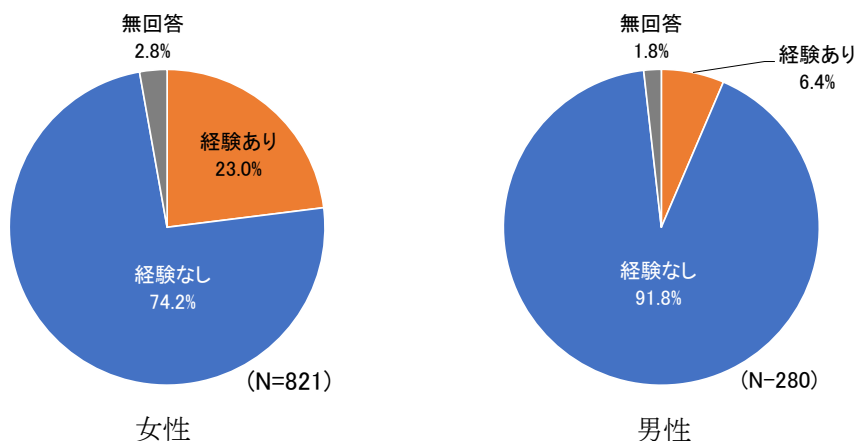


※デートDVの被害経験は除く

クロス集計分析

■ 男女別

・女性も男性も「経験なし」が多く、女性は74.2%、男性は91.8%であった。  
 ・「経験あり」の割合は、女性が23.0%、男性が6.4%であり、男性より女性のほうが16.6ポイント多かった。



■ 年齢別

・「経験あり」の割合は、40歳代が最も多く26.3%であった。

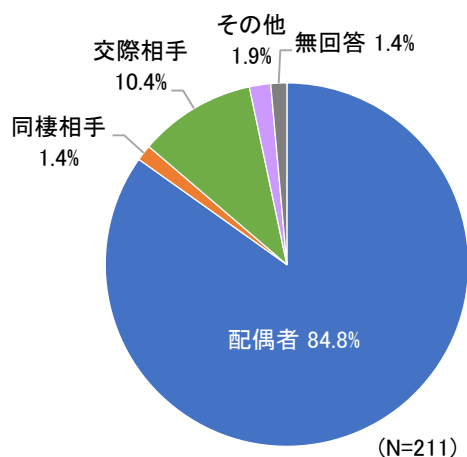
「経験あり」の割合

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
6.7%	12.9%	21.4%	26.3%	22.4%	16.7%	13.8%	5.6%	20.0%	18.9%

問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 17 そのような行為を行った相手は誰ですか。複数名いる場合は、これまでの経験のうち、一番最近の経験についてお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

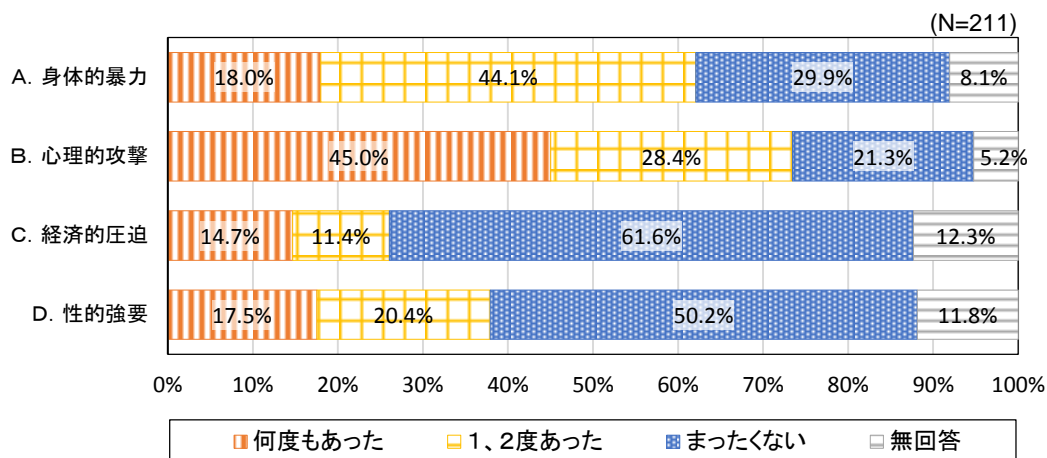
・「配偶者」が最も多く 84.8%、次いで「交際相手」が 10.4%であった。



問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 18 問 17 で選択した相手から、具体的にどのような行為を受けた経験がありますか。（A～Dそれぞれについて、あてはまるものに 1 つずつ○）

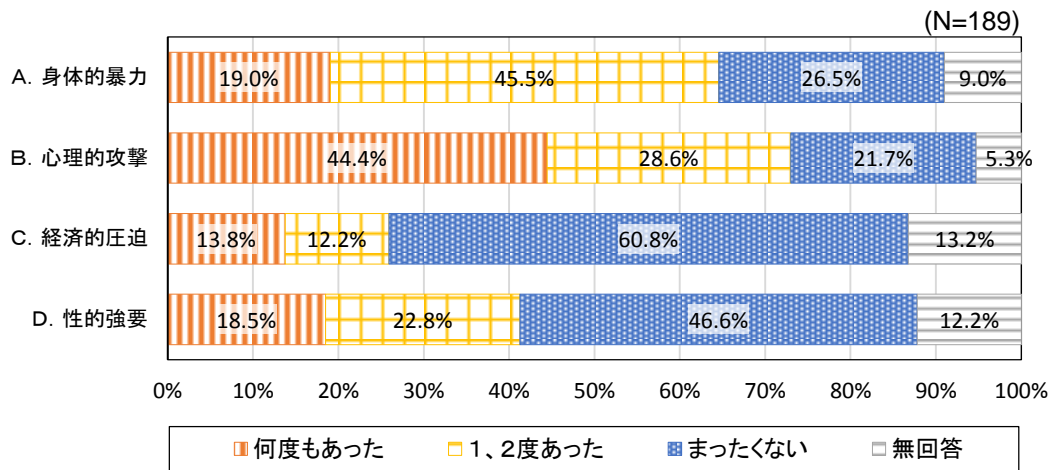
・「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人が最も多かったのは、[B. 心理的攻撃] であり、被害経験がある人のうち 73.4%が心理的攻撃を受けている。  
 ・次いで「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人が多かったのは、[A. 身体的暴力] であり、被害経験がある人のうち 62.1%が身体的暴力を受けている。



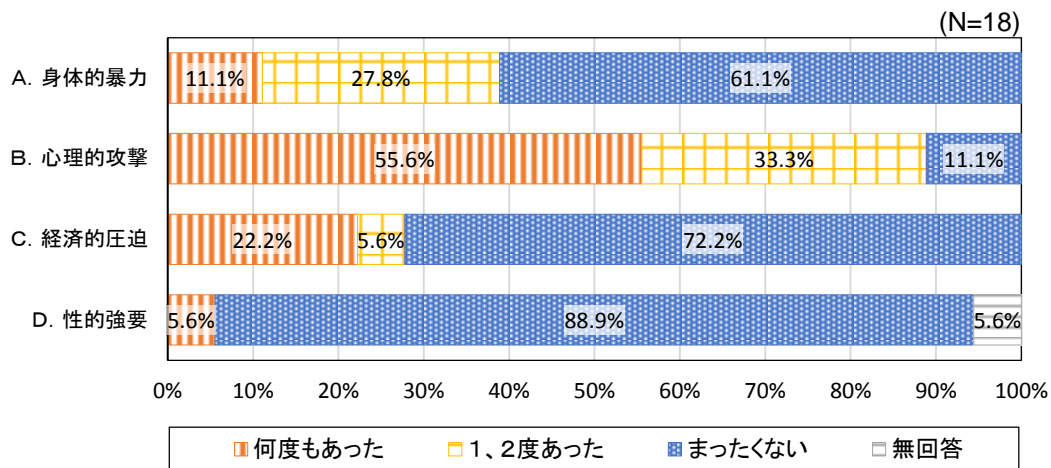
クロス集計分析

■男女別

- ・「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人を合わせた割合は、女性も男性も [B. 心理的攻撃] が最も多く、次いで [A. 身体的暴力] であった。
- ・ [B. 心理的攻撃] が「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人を合わせた割合は、女性は73.0%、男性は88.9%であり、女性より男性のほうが15.9ポイント多かった。
- ・ [A. 身体的暴力] が「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人を合わせた割合は、女性は64.5%、男性は38.9%であり、男性より女性のほうが25.6ポイント多かった。



女性

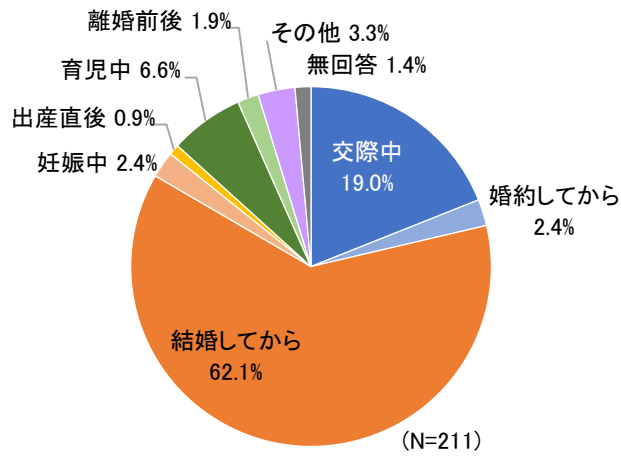


男性

問16で「1. 経験あり」と回答した者

問19 問17で選択した相手から、あなたが、問18のA～Dのような行為を最初に受けたのはいつですか。(あてはまるもの1つに○)

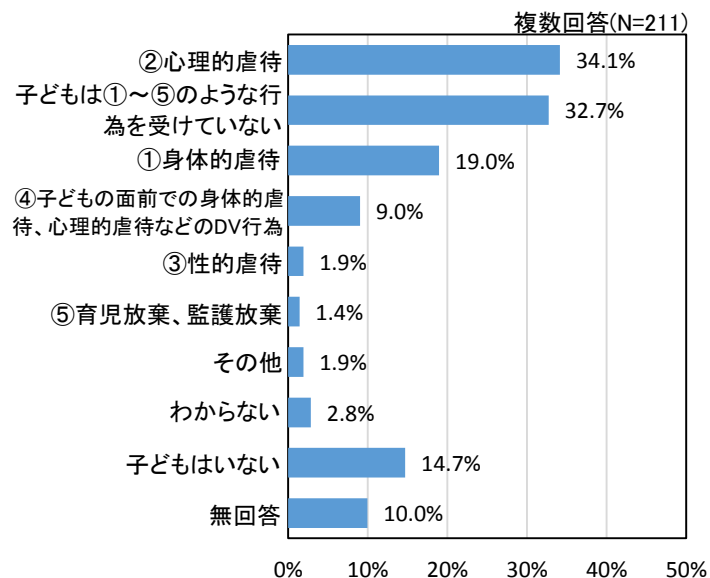
・「結婚してから」が最も多く62.1%、次いで「交際中」が19.0%であった。



問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 20 あなたのお子さんは、問 17 で選択した相手から次のような行為を受けていましたか。(あてはまるものすべてに○)

- ・「子どもは①～⑤のような行為を受けていない」は 32.7% で 2 番目に多かった。
- ・行為を受けていた中では「②心理的虐待」が最も多く 34.1%、次いで「①身体的虐待」が 19.0% であった。

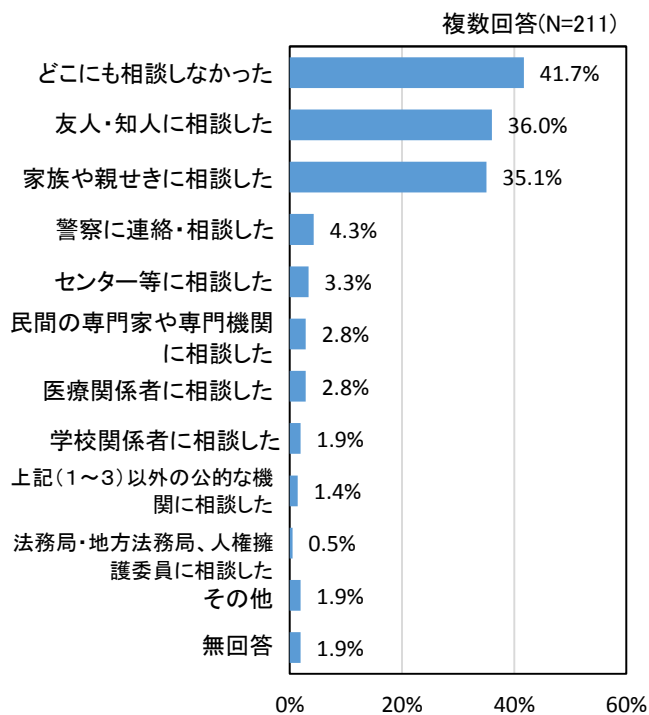


問16で「1. 経験あり」と回答した者

問21 あなたはこれまでに、問18のA～Dのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

※センター等:配偶者暴力相談支援センター(中央子ども家庭相談センター)、高田子ども家庭相談センター、奈良県女性センター

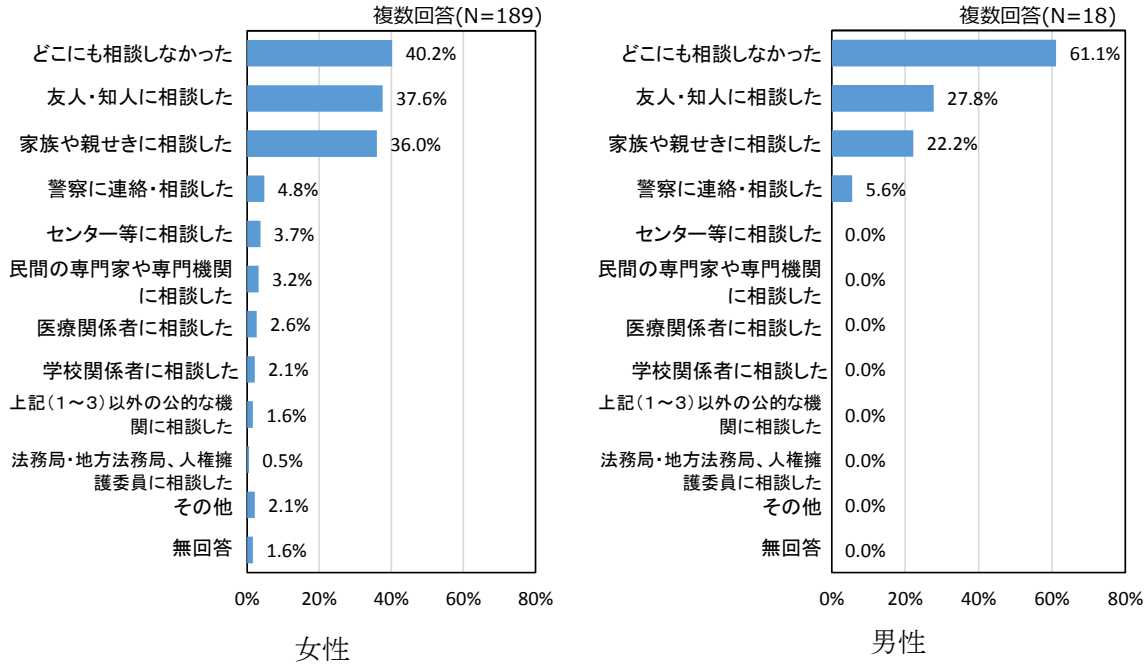
- ・「どこにも相談しなかった」が最も多く41.7%であった。
- ・一方で、相談した人の中では「友人・知人に相談した」が最も多く36.0%、次いで「家族や親せきに相談した」が35.1%であった。



クロス集計分析

■男女別

・女性も男性も「どこにも相談しなかった」が最も多く、女性は40.2%、男性が61.1%であり、女性より男性のほうが20.9ポイント多かった。



■年齢別

・「どこにも相談しなかった」の割合は、80歳以上が最も多く60.0%であった。

「どこにも相談しなかった」の割合

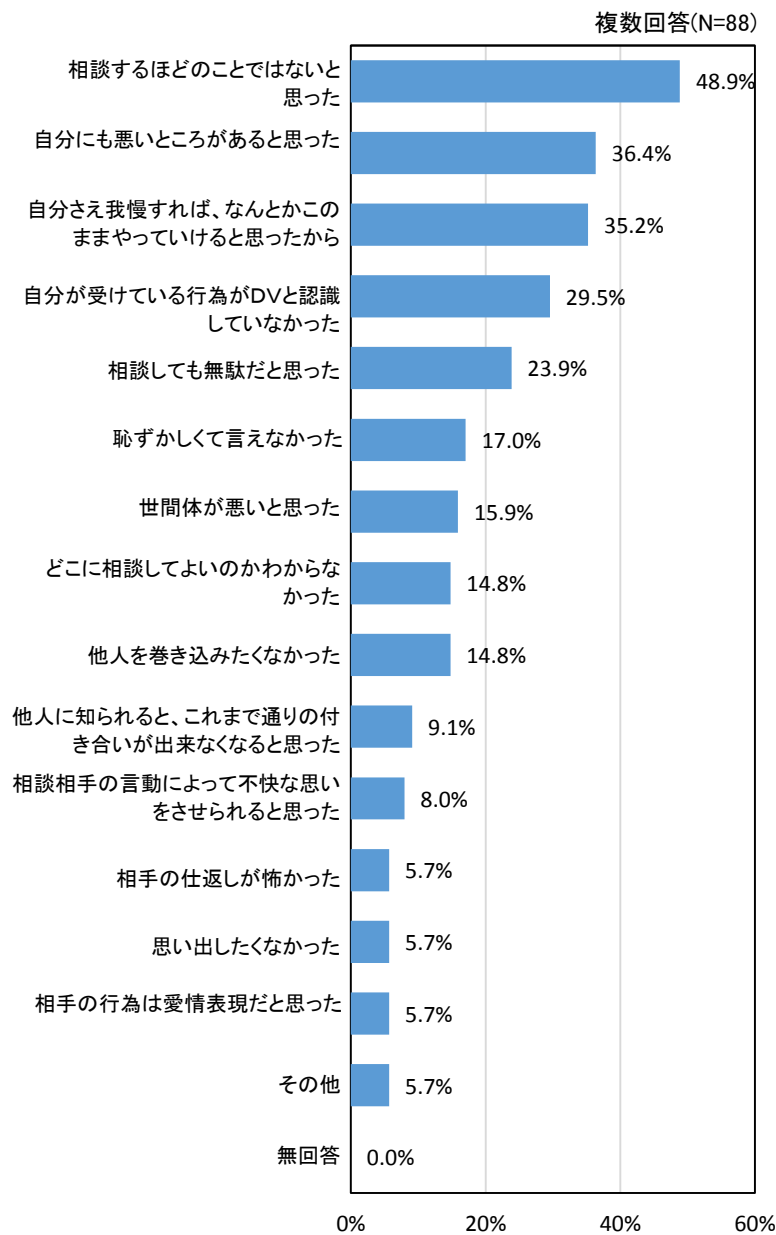
20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
0.0%	40.0%	20.8%	31.4%	26.0%	44.2%	34.4%	60.0%	0.0%	31.2%

問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 21 で「11. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した者

問 22 どこ（だれ）にも相談しなかった方にお聞きします。どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

- ・「相談するほどのことではないと思った」が最も多く 48.9%、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 36.4%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 35.2%であった。
- ・一方で、14.8%の人は「どこに相談してよいのかわからなかった」という理由で相談していない。

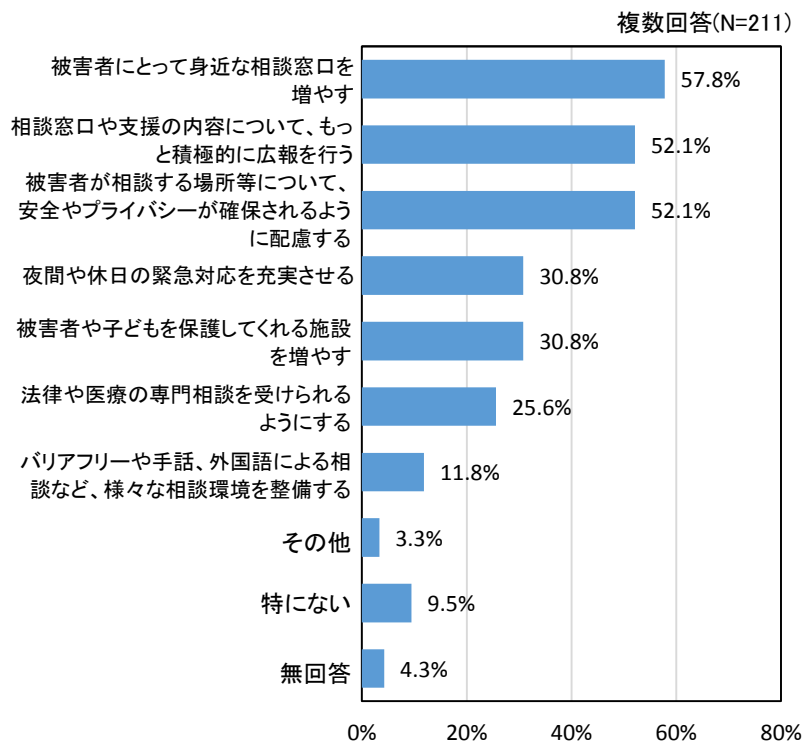




問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 23 行政機関の相談窓口について、相談をしやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

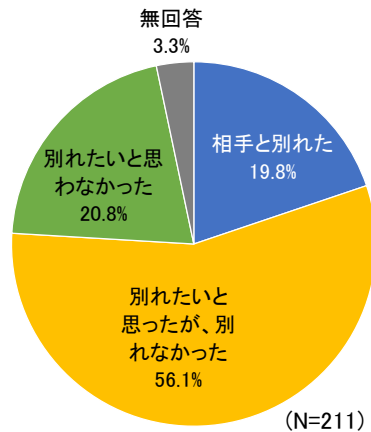
- ・「被害者にとって身近な相談窓口を増やす」が最も多く 57.8%、次いで「相談窓口や支援の内容について、もっと積極的に広報を行う」、「被害者が相談する場所等について、安全やプライバシーが確保されるように配慮する」が同率で 52.1%であった。
- ・一方で「特にない」は 9.5%であった。



問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 24 あなたは、問 17 で選択した相手から、問 18 の A～D のような行為を受けたとき、どうしましたか。(あてはまるもの 1 つに○)

- ・「別れたいと思ったが、別れなかった」が最も多く 56.1%、次いで「別れたいと思わなかった」が 20.8%であり、合わせて 76.9%の人が別れていない。
- ・一方で「相手と別れた」は 19.8%であった。



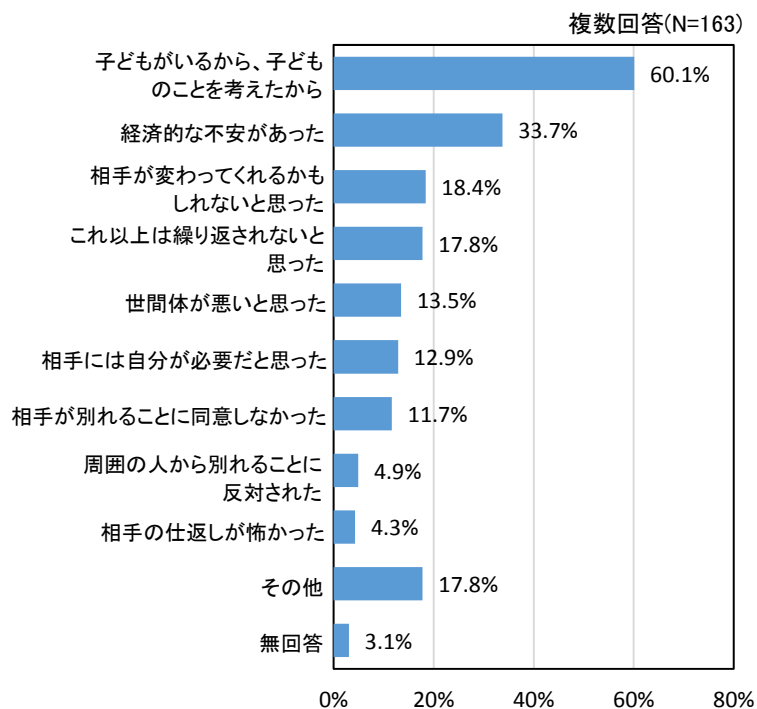
問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 24 で「2. 別れたい (別れよう) と思ったが、別れなかった」

又は「3. 別れたい (別れよう) と思わなかった」と回答した者

問 25 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

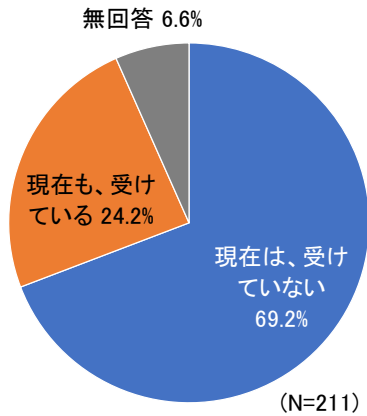
- ・「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多く 60.1%、次いで「経済的な不安があった」が 33.7%であった。
- ・一方で、4.3%の人は「相手の仕返しが怖かった」という理由で別れていない。



問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 26 あなたは、問 17 で選択した相手から、現在も、問 18 の A～D のような行為を受けていますか。  
(あてはまるもの 1 つに○)

・「現在は、受けていない」が 69.2%、「現在も、受けている」が 24.2%であった。



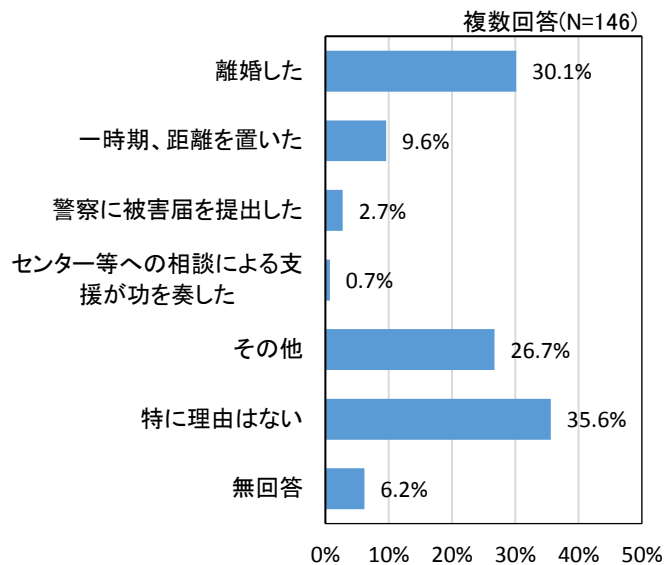
問 16 で「1. 経験あり」と回答した者

問 26 で「1. 現在は、受けていない」と回答した者

問 27 問 18 の A～D のような行為を受けなくなった理由は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

※センター等:配偶者暴力相談支援センター(中央こども家庭相談センター)、高田こども家庭相談センター、奈良県女性センター

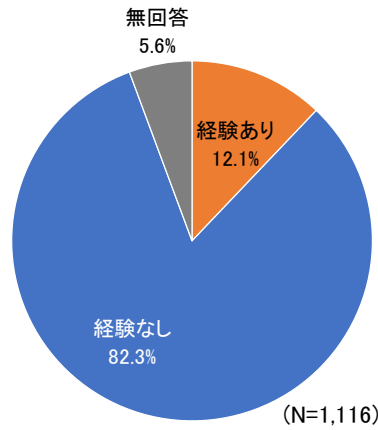
・「離婚した」が最も多く 30.1%、次いで「一時期、距離を置いた」が 9.6%であった。  
・また、「特に理由はない」が 35.6%であった。



【加害経験について】

問 28 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手に対して、問 14 の A～O のような行為を行った経験がありますか。(あてはまるもの 1 つに○)

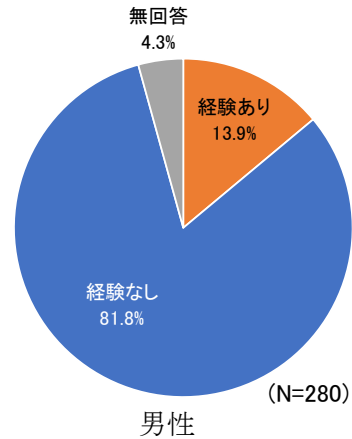
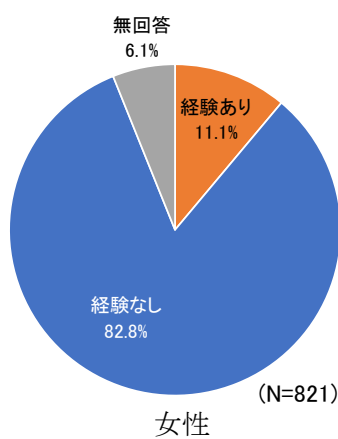
・「経験あり」が 12.1%、「経験なし」が 82.3%であった。



クロス集計分析

■ 男女別

・女性も男性も「経験なし」が多く、女性は 82.8%、男性は 81.8%であった。  
 ・「経験あり」の割合は、女性が 11.1%、男性が 13.9%であり、女性より男性のほうが 2.8 ポイント多かった。



■ 年齢別

・「経験あり」の割合は、50 歳代が最も多く 17.8%であった。

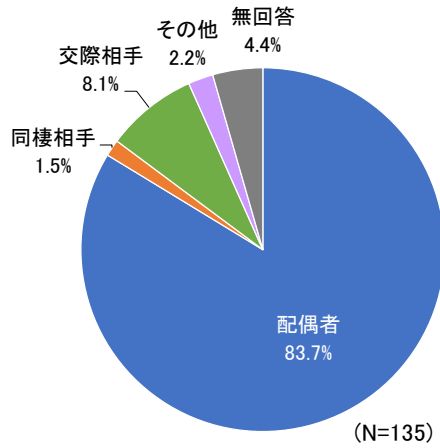
「経験あり」人の割合

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
6.7%	4.8%	12.7%	14.3%	17.8%	10.1%	10.0%	8.5%	20.0%	12.1%

問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 29 そのような行為を、誰に対して行いましたか。複数名いる場合は、これまでの経験のうち、一番最近の経験についてお答えください。（あてはまるもの1つに○）

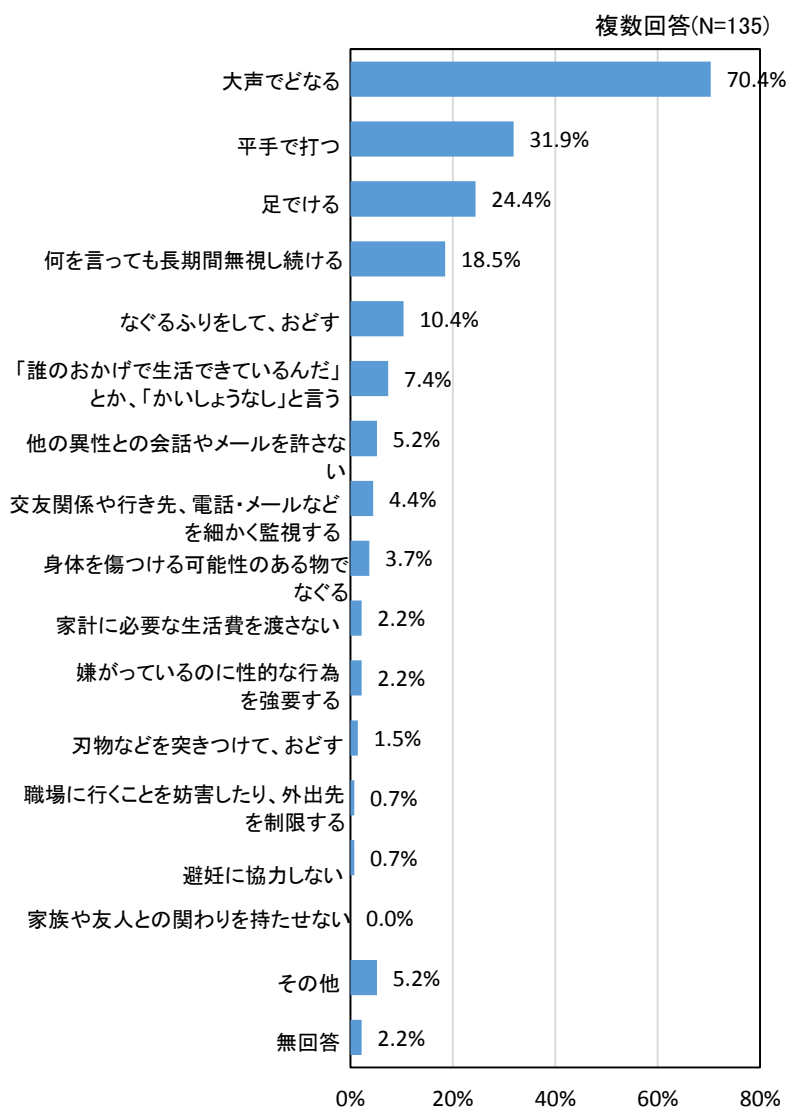
・「配偶者」が最も多く 83.7%、次いで「交際相手」が 8.1%であった。



問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 30 問 29 で選択した相手に対して、具体的にどのような行為を行いましたか。(あてはまるものすべてに○)

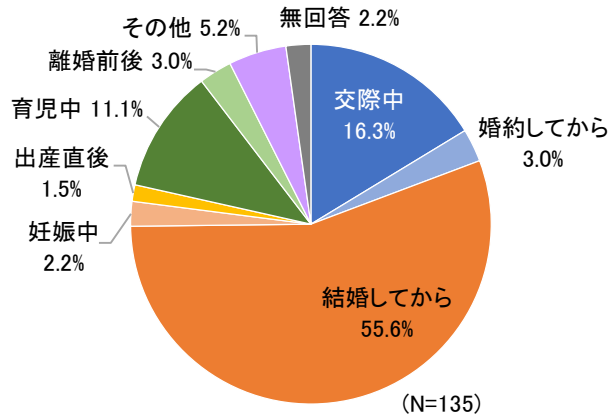
・「大声でどなる」が最も多く 70.4%、次いで「平手で打つ」が 31.9%であった。



問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 31 問 29 で選択した相手に対して、あなたが、問 30 で選択したような行為を最初に行ったのはいつですか。(あてはまるもの1つに○)

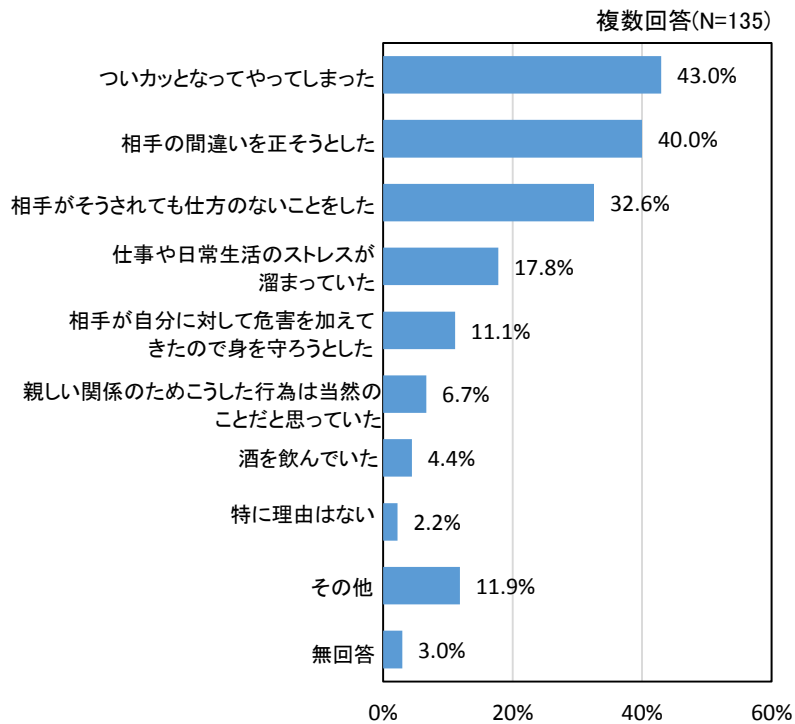
・「結婚してから」が最も多く 55.6%、次いで「交際中」が 16.3%であった。



問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 32 あなたが、問 30 で選択したような行為を行った理由またはきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

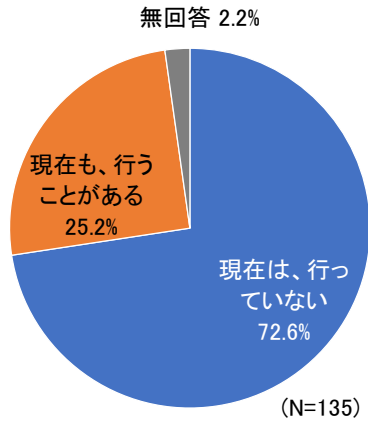
・「ついカッとなってやってしまった」が最も多く 43.0%、次いで「相手の間違いを正そうとした」が 40.0%、「相手がそうされても仕方のないことをした」が 32.6%であった。  
 ・一方で「特に理由はない」は 2.2%であった。



問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 33 あなたは、現在も、問 30 で選択したような行為を行っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

・「現在は、行っていない」が 72.6%、「現在も、行うことがある」が 25.2%であった。



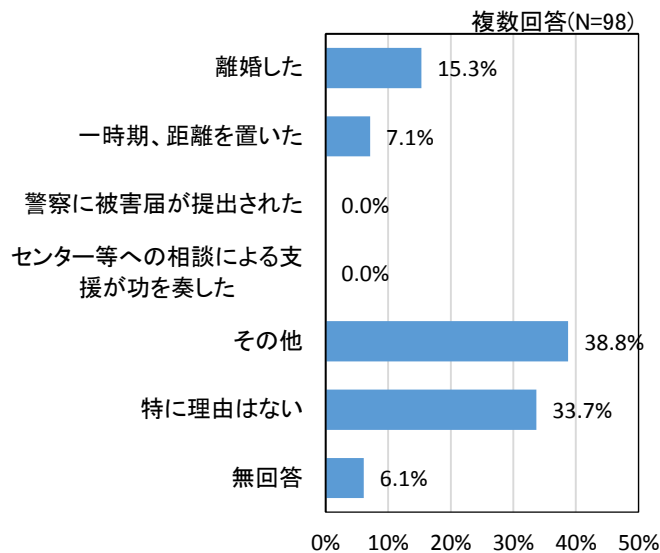
問 28 で「1. 経験あり」と回答した者

問 33 で「1. 現在は、行っていない」と回答した者

問 34 問 30 で選択したような行為を行わなくなった理由は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

※センター等:配偶者暴力相談支援センター(中央こども家庭相談センター)、高田こども家庭相談センター、奈良県女性センター

・「離婚した」が最も多く 15.3%、次いで「一時期、距離を置いた」が 7.1%であった。  
・また、「特に理由はない」が 33.7%であった。

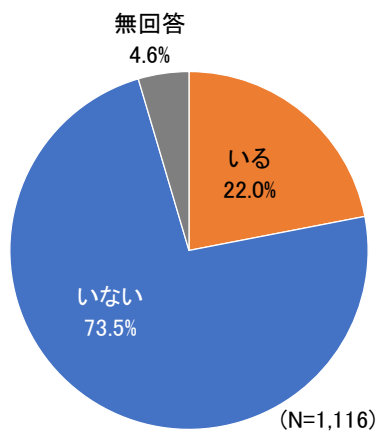




### (3) 友人や家族などからのDVIに関する相談について

問 35 あなたの家族、親戚、友人、知人など身近な人の中で配偶者や交際相手から問 14 の A～O のような行為を受けている人、もしくは過去に受けた人はいますか。(あてはまるもの 1 つに○)

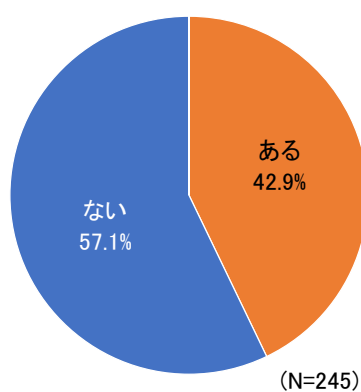
・「いる」が 22.0%、「いない」が 73.5%であった。



#### 問 35 で「1. いる」と回答した者

問 36 あなたは、問 14 の A～O のような行為を受けている人から、相談を受けたことがありますか。(あてはまるもの 1 つに○)

・「ある」が 42.9%、「ない」が 57.1%であった。



問 36 で「1. ある」と回答した者

問 37 あなたが、相談を受けるに至った経緯についてご記入ください。(自由記入)

●DVの行為を実際に見た、被害者のアザ・傷などを見て気が付いた

- ・実母が夫（私の実父）から暴力を受けたり、外出制限を受けたりしていた。(40 歳代・女性)
- ・生活費を入れない、言葉で傷つける、子ども達に暴力を振るっているところを現実に見た。(40 歳代・女性)
- ・バイト先の先輩。何時も殴られており、アザがあった。(40 歳代・女性)
- ・足に大きな青あざに気付いて、理由を聞いた。(50 歳代・女性) 等

●被害者から相談を受けた、助けを求められた

- ・友人であったため相談を受けた。(20 歳代・女性)
- ・突然、友人から言葉の暴力を受けていると打ち明けられた。(30 歳代・女性)
- ・裸足のまま避難して来られたので相談に乗り、泊まってもらった。(40 歳代・女性)
- ・友人から、ご主人から暴力を受けた過去及び酒を飲むと罵声をあびせるなどで困っていると相談を受けた。(60 歳代・女性)
- ・近所のお友達、奥さんが暴力を振るうご主人の事で、何回も泣いてこられました。(70 歳代・男性) 等

●DVが終わった後に話を聞いた（離婚後、加害者が亡くなった後など）

- ・兄が実家に心配かけまいとずっと黙っていたが、離婚話になり打ち明けた。(40 歳代・女性)
- ・既に離婚している人で自身の身の上話として聞いた。(50 歳代・女性)
- ・ご近所の奥さんが DV のご主人がなくなった後に話をして下さった。(60 歳代・女性) 等

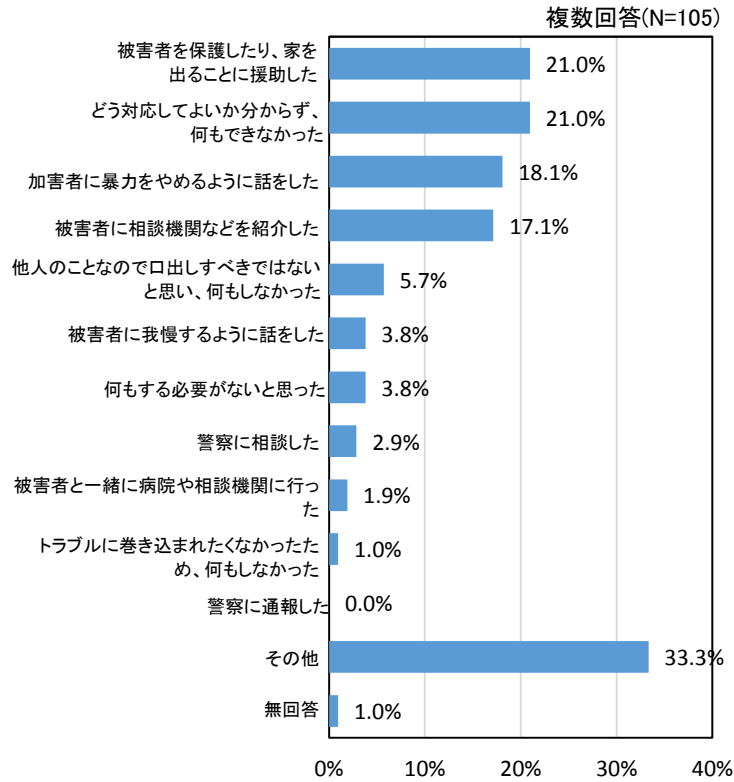
●その他

- ・DV を含む生活相談員をしていました。地域でエンカウンターグループも行っていたので、いろいろなご相談をお聞きしました。(40 歳代・女性)
- ・福祉事務所の職員歴があり、職場を離れてからも知人より相談等受けることがあった。(50 歳代・女性) 等

問 36 で「1. ある」と回答した者

問 38 あなたが、相談を受けた後にとった行動についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

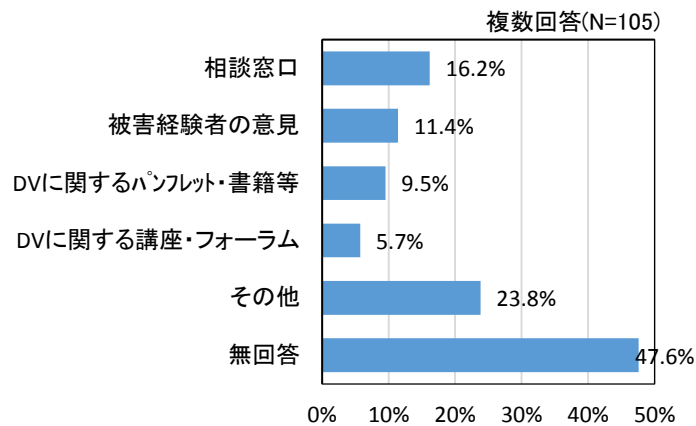
・「被害者を保護したり、家を出ることに援助した」、「どう対応してよいか分からず、何もできなかった」が同率で最も多く 21.0%、次いで「加害者に暴力をやめるように話をした」が 18.1%、「被害者に相談機関などを紹介した」が 17.1%であった。



問 36 で「1. ある」と回答した者

問 39 あなたは、相談を受けて、アドバイスや対応などをするために参考としたものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

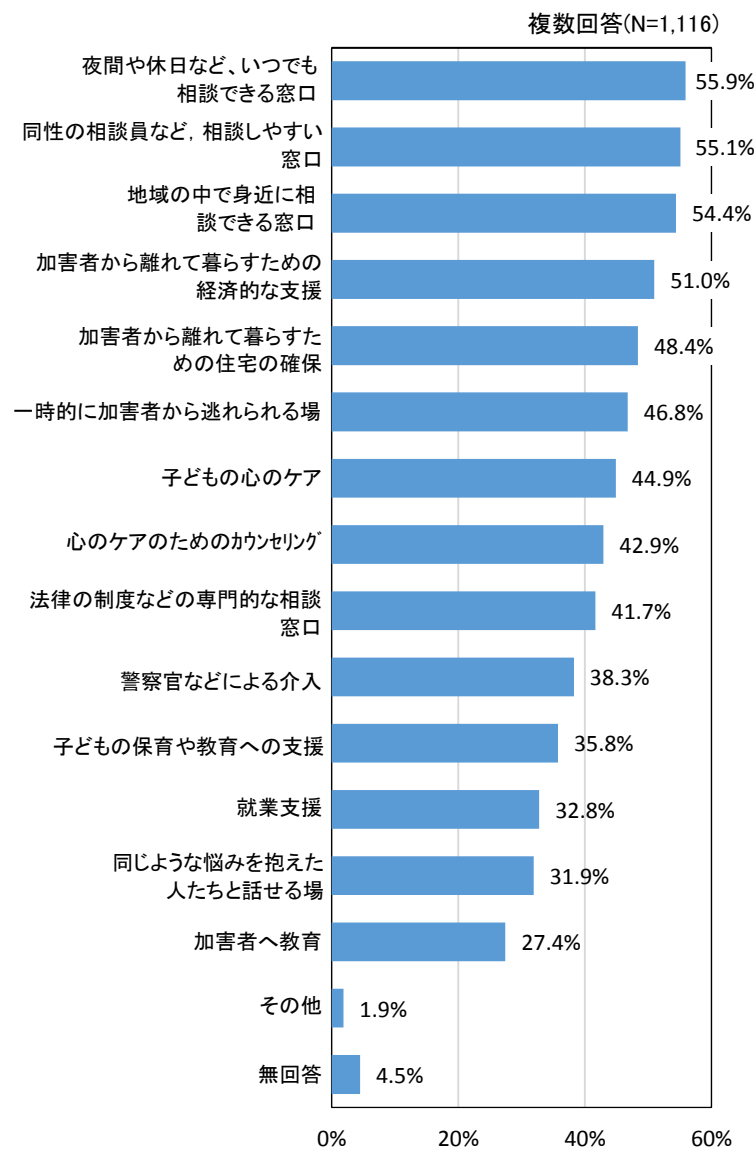
・「相談窓口」が最も多く 16.2%、次いで「被害経験者の意見」が 11.4%であった。



#### (4) その他

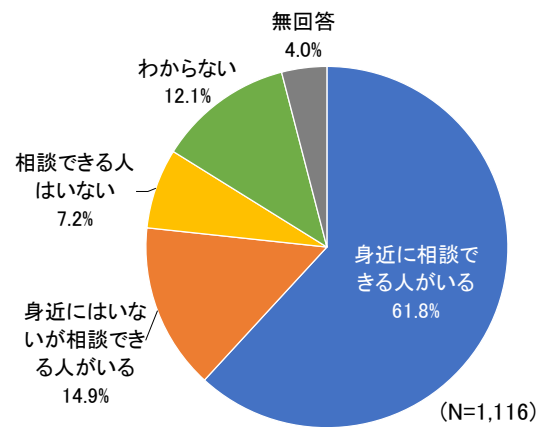
問 40 配偶者などからの暴力を受けた被害者への支援について、どのようなことが重要と思われますか。(あてはまるものをすべてに○)

- ・「夜間や休日など、いつでも相談できる窓口」が最も多く 55.9%、次いで「同性の相談員など、相談しやすい窓口」が 55.1%、「地域の中で身近に相談できる窓口」が 54.4%であり、相談窓口に関する回答が多かった。
- ・また、「加害者から離れて暮らすための経済的な支援」が 51.0%、「加害者から離れて暮らすための住宅の確保」が 48.4%であり、加害者から離れて暮らすための支援（自立）に関する回答も多かった。



問 41 あなたは、悩みや心配事（DVに拘らず）があるとき、身近に相談ができる人がいますか。  
（あてはまるもの1つに○）

- ・「身近に相談できる人がいる」が最も多く 61.8%、次いで「身近にはいないが相談できる人がいる」が 14.9%であり、合わせて約 76.7%の人が相談できる人がいる。
- ・一方で「相談できる人はいない」は 7.2%であった。



問 42 配偶者等からの暴力について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

(自由記入)

●関係機関との連携に関する意見

- ・暴力は連鎖するので警察など対応、介入できる機関の人は相談を受けたら即日対応し、特に子どもの心のケアを充実させてほしい。(40歳代・女性)
- ・プライバシーが気になるので、市町村には相談しにくい。県レベルでの支援が必要。(40歳代・女性)
- ・公的機関だけでなく気軽に相談できる所をたくさん作るとよいと思います。私達の教会もそういう方がこられたりします。(50歳代・女性) 等

●DVに対する意識に関する意見

- ・職場の人で旦那から「誰のおかげで生活できているんだ」と言われている人がいて、亭主関白だと思っていましたがDVだと知りました。(20歳代・女性)

●広報・啓発に関する意見

- ・暴力を受けていても、それが当たり前になっていて被害者であることに気付いていない人も居ると思うので、そういった方に支援を差し伸べるのは難しいと思うので、「こんな場合はDVです。」といった事例を周知し、被害者や加害者に「気付かせる」ことも大切かと思いました。(20歳代・女性)
- ・今回このアンケートに答え、自分が思っていた「DV被害」の定義があいまいであり、また相談する事のできる場所、機関についても知らないと感じました。インターネット等で調べれば知ることできるのですが、自分が実際に被害にあった時に、その心の余裕があるのかとも思うので、知識として先に知っていると被害を軽いうちににくいとめられる様にも思います。(40歳代・女性) 等

●男女平等・人権に関する意見

- ・「男尊女卑」という言葉があるように、未だ完全なる平等を実感しないている。個人の意見としては、どのような場合でも夫婦間に於いては相互が満足していれば正解、どちらか一方の我慢の上に成り立つ場合は不正解だと思っている。その上に暴力が伴う場合は大問題どころか本来あってはならないと思う。私の考える不正解家庭で育った子ども達はそれを正解として成長するだろうから、この連鎖の止めようは大変難しい。(40歳代・女性) 等

●社会通念・慣習に関する意見

- ・どこまでを暴力とするかは人それぞれですが、昔のしつけのように、愛のあるものの中には含まれていると考えます。今の御時世ですから、手をあげる事も、どなる事も全てDVになってしまうのかもしれませんが、理由がある時は話し合いで解決できる事もあると思います。その人たちに合った解決法があるのではないのでしょうか。(30歳代・女性)
- ・生まれ育った環境が、その人の常識の物差しとなると思います。殴られて大きくなった人は、それが普通と思っているので殴るし、殴られても外へ発信することはないということです。(30歳代・女性) 等

### ●教育に関する意見

- ・子どもの頃から暴力について親や教育者が伝えていく必要があると私は思います。(40歳代・女性)
- ・成人やティーンエイジャーになる前、子どもの頃からDVについての教育をしていく必要があると思う。子どもの頃からDVを含む人権教育をし、自分自身も自分以外の人を大切にできるようにして将来的にDVが今よりも少なくなるようになってほしい。(40歳代・女性) 等

### ●加害体験に関する意見

- ・私は昔人間で、夫婦間の事(言葉の意味の理解が遅い時など)でよく大声を上げます。段々耳も遠くなり、言葉の発声の障害もあるため、長い間夫婦をやっているとある程度は理解してもらっていると思っているので、余計に苛立ちがあると思います。(80歳以上・男性) 等

### ●加害者対策に関する意見

- ・昭和の夫婦なんて皆、言いたいこと言ったり、叩いたりしている。区別が難しいが、要は、精神的なもので暴力する人は上手く伝えられない、言い負かされてしまうような弱い人。加害者の相談窓口の周知も必要だと思う。(40歳代・女性)
- ・被害者を保護することについては大変社会全体が進んできていると感じるが、加害者に対する支援、教育が随分と遅れていると思う。加害者教育の充実をぜひ拡大していただきたい。(50歳代・女性) 等

### ●相談支援に関する意見

- ・小さな村なので、相談するとなると役場になるが、役場の職員は皆顔見知りなので相談しづらい。年1回でいいので、よそから相談員を派遣してほしい。電話相談より顔を見て話すほうが細かいニュアンスも伝えやすいので。(30歳代・女性)
- ・電話やメールなどで相談できれば良いと思う。(30歳代・女性)
- ・暴力に対してポイントとなるチェック項目を定め、それに当てはまった場合は即時に相談員や救助、支援を具体的な形で行うようにしていく。相談しても様子を見る等だけではいけないのではと思う。(40歳代・女性)
- ・DVの相談機関があることを、もっと周知する活動を行った方が良いと思う(CMに流す等)。(40歳代・女性)
- ・加害者の監視がひどくて相談や通報ができない人もいると思う。そういう方々を助けるには周囲の人が通報できる制度があると良いと思いました。(20歳代・女性) 等

### ●被害体験に関する意見

- ・主人は2～3年前にうつ病になり、うつ病が良くなった今でも少し我慢するようなことがあると不安になり、言葉のDVや胸ぐらを掴まれたこともありました。普段は真面目で子どもの相手をしたり、私に気配りをしてくれるので、私なりに我慢してなるべく主人を怒らせないように努めています。やはり子どもを思うと別れることはできません。(40歳代・女性)
- ・物心つく頃から、父から母へのDVを目の当たりにしたり、母から父の悪口を毎日聞かされたりと、とても辛い事ばかりでした。子どもは親を選べないし、やめると言うことも、出ていく事もできない。私も子どもにひどく叩いたり、叱ったりしてしまう時もありました。今はとても反省しています。子ども達を守ってあげてください。心のキズは今も深く残っています。(50歳代・女性) 等

### ●被害者の保護に関する意見

- ・加害者と離れて暮らせたのに、被害者の新たな住居や個人情報をもれることがないように徹底してほしい。(20歳代・女性)
- ・加害者と完全に断ち切れるように法律や警察の介入をスムーズにできるようにする。(40歳代・女性)
- ・加害者から逃れるための場(本当に安心して居られる場)が少ないのではないかと。また、直ぐに助けるためのシステムが、まだまだ確立されていないのではないだろうか。24時間体制で対応できる組織が数多く確立することが、被害者を守り、安心して生活できるための第一段階だと思います。(40歳代・女性) 等

### ●被害者の自立支援に関する意見

- ・経済的な理由で配偶者から逃げられない人も多いはず。逃げてきた後の自立への支援、また子どもへの対応をもっと充実させるべきだと思います。(40歳代・女性) 等

### ●子どもへのサポートに関する意見

- ・私は小さい時から、父から母へのDVを見て育ちました。昔はDVという言葉もなく、目の前で何が起きているのかわかりませんでした。今でも思い出します。今さら心のケアを受けたくないですが、今後は子ども達への心のケアは十分考えてほしいです。(40歳代・女性) 等





---

配偶者等からの暴力に関する調査  
調査結果報告書

平成 30 年 3 月

---

奈良県 健康福祉部 こども・女性局 こども家庭課課  
〒630-8501 奈良市登大路町 30  
TEL : 0742-27-8678 / FAX : 0742-27-8107

---